

基本方針	事業名	R4年度評価	概要	R4年度 評価コメント
地域ニーズに対応した、安心・快適に移動できる公共交通の整備	1-1 JR山陽本線・JR播但線・JR姫新線 山陽電鉄本線・山陽電鉄網干線	B	▶利用促進活動や鉄道事業者への要望活動により、鉄道のサービス水準の維持・向上に努めるとともに、利用者の増加や地域の活性化を目指す。	▶姫新線車両基地見学会をはじめ利用促進活動を進めるもコロナにより一部のイベントは中止となった。 ▶JRに対し各種要望活動を実施するも、JRの経営悪化により播但線において昼間時間帯に減便となった。
	1-2 バス路線網の維持	A	▶バス事業者と連携し、利用ニーズに沿ったサービスの拡充や利用促進を進める。 ▶国庫補助等を活用しながら、適切な行政支援を行う。	▶バス事業者と勉強会を通じて利用促進に関する取組や利用状況に応じたサービスの見直しによる補助金の縮減を進めながら適切に行政支援を実施しバス路線の維持に努めた。 ▶燃料費高騰への対策として支援制度の創設し、補助金を交付した。
	1-3 バス路線網の再編	B	▶地域住民に最適な移動サービスを提供するため、バスの便数や重複路線の見直し、ルートの改変等により、効率的で利用しやすいバス路線網の再編に努める。	▶南西部の再編を再生塾のテーマ課題として提供し、塾生から提案を受けた。次年度以降の再編の参考とする。 ▶利用者の利便性を損なわない範囲でダイヤの適正化に努めたが、それ以上の具体的な再編等には及んでいない。
	1-4 郊外部と都心部を連帯する バス路線の機能強化	B	▶鉄道との重複区間や駅との接続が悪い路線について、鉄道との役割分担によりバスの定時性、速達性の向上を図る。 ▶郊外部を結ぶ路線を導入し、移動の多様性を確保する。	▶余部駅周辺の道路整備に進捗がなく、具体的な検討には及んでいない。 ▶姫路港と飾磨駅の接続に向け検討し、バス運行には飾磨駅周辺の道路整備が不可欠であることが分かった。
	1-5 離島航路の運営支援	A	▶島民の減少に伴う旅客船利用者の減少により航路を取り巻く環境は厳しくなる中、安定した運航を維持するため、各種補助制度の活用による運営支援を行う。	▶坊勢島航路において、国庫補助金取得のため計画を策定するとともに、経営改善に向けた事業者との協議を進め、効率的な船舶の投入や料金改定を実施し、航路の維持に努めた。 ▶燃料費高騰への対策として支援制度を創設し、補助金を交付した。
	1-6 姫路港旅客ターミナルエリア再編整備	B	▶姫路港の「交通結節点の快適性・利便性向上」、「効率的な機能配置による貨物と旅客のすみわけ」、「玄関口としてふさわしい良好な景観の形成」等を目的に、旅客ターミナルエリアの再編整備を進める。	▶整備箇所が多く、エリアが広範囲であるため、各整備箇所の着手時期等が流動的であるが、兵庫県が順次整備を進めている。
	1-7 地域公共交通の導入	A	▶優先的に検討する交通空白・不便地について、地域住民や交通事業者と共に地域公共交通の導入を目指す。 ▶ボランティア輸送や自家用有償運送など住民主体の公共交通導入について交通事業者との調整等を支援する。	▶安富地域、菅野地域、前之庄地域、香寺地域への地域公共交通導入の可能性について事業手法を検討した。 ▶高木地域は予約時間を運行1時間前までに変更し利用者は増加したが、乗合率は低下したため利用促進を実施した。 ▶広峰地域では地元や交通事業者した結果、ボランティア輸送以外の輸送手段について検討していくこととなった。
	1-8 タクシーの活用	A	▶郊外部などの小規模移動需要や大型車両が通行できない地域の移動手段としてタクシーの活用を検討する。 ▶福祉タクシーなど高齢者等が乗降しやすい車両の導入を促進する。	▶広峰地域におけるボランティア輸送の導入に向け、タクシー協会と協議した。 ▶福祉タクシーの導入についてタクシー事業者等からの要望はなかった。
	1-9 広域連携公共交通の導入	B	▶日常生活圏が他市町と跨るような地域において、近隣市町と連携し広域的な公共交通の導入を目指す。 ▶日常生活圏が他市町と跨る地域の交通課題を解決するため近隣市町と広域的な地域公共交通計画の策定を目指す。	▶ふくひめ号のダイヤ改正に伴い新時刻表を沿線地域に全戸配布し利用促進したが、地域住民との意見交換までは至らなかった。 ▶広域的な地域公共交通計画については、関係市町と認識の共有を図るも課題整理までは至らなかった。
	1-10 幹線道路整備	A	▶市内各地で発生する交通渋滞解消に向け、整備プログラムに基づく効率的な幹線道路整備を進める。 ▶国際競争力の強化や災害時の緊急道路としての機能が期待される播磨臨海地域道路の整備促進を図る。	▶整備プログラムで示された前期着手3路線と後期着手1路線において事業を進めた。 ▶播磨臨海地域道路は、都市計画・環境アセス手続きに向け国や県が実施する関係機関協議に係る調整を実施した。
	1-11 バスベイ設置推進	A	▶渋滞緩和や追突事故防止等のため、運行本数や交通量が多い路線、乗降客数の多いバス停留所について、重点的にバスベイの設置を進める。	▶道路管理者に向けて道路整備時のバスベイ設置への協力を要請した。
多様な交通を選択でき、人とまちをつなぐ交通環境の充実	2-1 MaaSの活用	A	▶ウェブサイト等で目的地に対応した乗継案内サイトの開設や公共交通におけるキャッシュレス化、MaaSアプリの開発を促進する。	▶MaaSミーティングに参加するなど他都市状況や全国的な情報を収集した。
	2-2 新駅整備(JR姫路駅－英賀保駅間)	A	▶鉄道へのアクセス性向上とともに、手柄山中央公園の再整備に合わせ、公園に直結したアクセス交通の確保を目指し、新駅や周辺道路の整備を進める。	▶令和8年春の新駅開業に向け、予定どおり周辺道路等の工事に着手した。
	2-3 鉄道駅周辺整備	A	▶多様な移動手段での交通アクセス性の向上とともに、人の交流やまちの賑わいを促進する空間の確保に向けた交通結節点の整備・機能強化を図る。	▶山陽電鉄大塩駅では駅前広場の整備や南工区の道路改良を完了し、引き続き北工区の道路改良を進める。 ▶JR英賀保駅では自由通路等各種設計が完了した。
	2-4 バス停留所整備	A	▶利用者の多いバス停留所について、周辺施設も活用しながら上屋やベンチの設置を進める。	▶上屋やベンチの整備を促進するため、バス事業者と協議し「姫路市乗合バス停留所に係る上屋及びベンチ整備費補助金交付要綱」を制定した。
	2-5 パーク&ライド、パーク&バスライド	B	▶都心部への自動車交通を抑制し、都心の交通混雑緩和を進めるため、郊外の鉄道駅やバス停留所において、駐車場整備を促進する。	▶姫新線、播但線ともに駐車場マップチラシを作成し、広報・啓発を図った。 ▶播但線同盟会HP作成に向けた事務局との協議は実施できなかった。
	2-6 サイクル&バスライド	S	▶バス停留所への自転車アクセス向上のため、利用者が多いバス停等において駐輪場の整備を進める。	▶県内初の取組としてマックスバリュ、神姫バスとの3者協定を締結し、マックスバリュ既存駐輪場を活用したサイクル&バスライドを4箇所実施した。
	2-7 道の駅整備	B	▶本市の主要観光地を訪れる観光客の7割以上が自動車利用であることから、自動車利用者へのおもてなしを強化するとともに、公共交通利用促進のための交通結節点とすべく道の駅を整備を令和8年度の開駅を目指して進める。	▶測量等の一部事業について令和5年度に継続して実施することとした。 ▶事業手法を検討しDBO方式にて実施することに決定した。
	2-8 自転車通行空間の整備	B	▶自転車を市民生活の移動手段や観光地までの移動手段の一つとして位置づけ、歩行者・自転車・自動車が安全・安心で快適に通行できる自転車通行空間の整備を進める。	▶姫路市自転車通行空間整備推進計画に基づき、幹第43号線（車道混在）ほか1路線において整備を進めたが、当初計画のうち1路線については整備できなかった。
	2-9 放置自転車対策	A	▶歩行者や自転車が安全で快適に移動できる道路空間を維持するため、駐輪場の整備運営等により放置自転車の発生を抑制する。	▶放置自転車が常態化していた亀山駅において駐輪場を移転整備し、放置自転車禁止区域とすることで改善を図った。 ▶放置自転車禁止区域における巡回と放置自転車への警告及び撤去等をほぼ毎日実施し、放置自転車等を撤去した。
	2-10 シェアサイクル「姫ちゃり」の利用促進	A	▶公共交通を補完し、中心市街地の活性化や都心部の回遊性の向上を目的にシェアサイクルの利用促進を図る。	▶利用者が安全・快適に利用できるよう設備点検を実施し、事故なく運営することができた。 ▶令和5年度のスマートロック式への移行を目指し、システム等の検討、関係機関との協議、調整を実施した。
	2-11 歩行環境の充実	A	▶より安全・安心、快適な歩行環境の充実を目指して、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の形成に向けた取組や路上喫煙対策を進める。	▶公募により歩行者利便増進誘導区域における占用者を選定し、令和4年8月から占用を開始し賑わい創出に努めた。 ▶中心市街地において公共空間利活用の社会実験を実施・分析検証し、公共空間の利活用の仕組みづくりを行った。 ▶路上喫煙監視指導員の巡回による路上喫煙対策を実施するとともに、市民アンケートにより意見集約を行った。

基本方針	事業名	R4年度評価	概要	R4年度評価コメント
持続可能な公共交通を地域や多分野で支える仕組みの形成	3-1 沿線地域の活性化	A	▶他市町や地域住民等と協力しながら、地域の公共交通である鉄道やバスへの愛着の醸成につながる利用促進活動に取り組み、沿線地域の活性化を目指す。	▶姫新線車両基地見学会を3年ぶりに実施。募集100名に対し1200名を超える応募があり、盛況に開催できた。 ▶本市初の取組として地域の小学生が描いたバスの絵画を車内に展示する「走るギャラリー!!バス絵画展」を実施した。
	3-2 公共交通のバリアフリー化	B	▶高齢者や障害者等だれもが安心して公共交通を利用できるよう公共交通のバリアフリー化に取り組む。	▶ノンステップバスへの補助は、バス事業者からの申請が1台で当初計画には及ばなかったが補助を実施した。 ▶夢前川駅のバリアフリー化に補助金を交付し、バリアフリー化を促進した。
	3-3 感染症対策	B	▶感染症の感染拡大防止に向けた支援により、誰もが安全・安心に利用できる交通手段の確保に取り組む。	▶各交通事業者は既に感染症対策を実施していることから感染症対策としての補助金交付等を行わず、代わりに燃料価格高騰対策支援を実施した。なお、コロナ5類移行のため取組を終了し、今後新たな感染症が発生し次第再開する。
	3-4 総合情報案内	B	▶姫路駅での案内の充実や市内の施設間の移動利便性向上のためのマップ（簡易版総合時刻表）の作成、情報案内看板の制作等に取り組む。 ▶本市を初めて訪れる人でも迷わず快適・円滑に移動できるよう、わかりやすい情報案内を目指す。	▶既存パンフレットを活用した観光・交通情報の提供を実施した。 ▶地域DMOにおける移動円滑化に向けた情報発信について引き続き検討を行う。
	3-5 ノーマイカーデーの推進	B	▶地域の公共交通を将来にわたり守り・育てるとともに、二酸化炭素排出量削減のためノーマイカーデーの実施とその拡大に向けた普及・啓発活動を行う。	▶エコドライブの啓発を実施する中で、自転車や公共交通機関の利用についても啓発した。 ▶啓発用横断幕については設置場所に空きがなかったため、令和4年度は設置していない。
	3-6 マイバス・マイ電車の日	B	▶毎月最終金曜日を「マイバス・マイ電車の日」と定め、公共交通の利用促進するとともに、交通事業者や他の自治体とともに活動を推進する。本市では市内ノーマイカーデーの取組に合わせて実施する。	▶ノーマイカーデーに併せて啓発活動を実施するも、コロナ禍でもあり、取組の実施自体は出来なかった。
	3-7 モビリティ・マネジメントの推進	A	▶学校や市民、企業等に対し、公共交通の利用を促す「モビリティ・マネジメント」を実施することで、公共交通の利用促進を図るとともに、地域の公共交通を将来にわたり守り・育てる意識改変を交通事業者とともに取り組む。	▶小学校でのバスの乗り方教室や姫路高校での座談会（探究研究）をバス事業者とともに実施した。 ▶小学生が描いた絵画をバス車内に展示した「走るギャラリー!!バス絵画展」を実施した。 ▶広報ひめじ9月号に「公共交通の現状と必要性」に関する特集記事を掲載し、利用促進を図った。
	3-8 運転免許自主返納	A	▶警察や交通安全協会等と連携しながら、高齢者の運転リスクや運転免許返納による公共交通の運賃割引特典などを広報・啓発し、高齢者の自主的な免許返納につなげる。	▶交通安全教室は開催回数、受講参加者ともに前年度より増加し、高齢者の交通安全啓発に努めることが出来た。 ▶窓口等で啓発リーフレットを配布したが、予算上、限られた人数しか配布出来ず要望に対応できない部分もあった。
	3-9 公共交通情報の発信	B	▶運行状況や利用状況等について広く情報発信し、交通情報の周知・共有することで公共交通の利用促進を図る。 ▶複数の公共交通情報を共有できるウェブサイトの作成を検討するなど、公共交通に対する認知度向上を目指す。	▶ウェブサイトの開設に向け検討するも、具体的な方向性の決定には至らなかった。
	3-10 出前講座の実施	A	▶公共交通の認知度向上と利用者の意見聴取を目的とした意見交換の場として出前講座を実施し、公共交通の現状や課題、利用方法等を共有するとともに、愛着の醸成を図ることで公共交通の利用促進、サービス向上につなげる。	▶出前講座を2回（西播社会保障推進協議会、姫路商業高校）実施した。

事業評価 S：予定以上の進捗 A：予定どおり適切に実施 B：おおむね実施された、一部実施されなかった C：実施されなかった、ほとんど実施されなかった